



2024年8月14日

各位

会社名 株式会社 Birdman
代表者名 代表取締役社長 伊達 晃洋
(コード番号：7063 東証グロース)
問合せ先 執行役員 CFO 兼 管理本部長 若山 尚文
(TEL 03-6865-1322)

前期実績との差異に関するお知らせ

2024年2月14日付「通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表のとおり、当社は、2024年6月期通期の連結業績予想について、主事業の一つであるエンターテインメント領域（EX事業およびエンタメネクスト）において、大型イベントの中止及び延期が発生したことを理由に「未定」としておりました。しかしながら、2024年6月期（2023年7月1日～2024年6月30日）の連結業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 前期実績と当期実績の差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績値 (A)	4,484	56	42	△7	△1.53
実績値 (B)	2,085	△1,840	△2,021	△3,028	△576.48
増減額 (B-A)	△2,399	△1,896	△2,064	△3,020	—
増減率 (%)	△53.5	—	—	—	—

2. 差異の理由

売上高につきましては、日本発・韓国を中心としたアジアで世界を眺望し飛躍するアーティストが一堂に会する複数のイベント企画を複数予定しておりましたが、2024年5月1日付「特別損失の計上に関するお知らせ」で公表した2023年9月および10月の公演中止による影響を含め、出演アーティストのブッキングなどの影響により、複数の公演計画の中止や延期が発生いたしました。

また、2024年5月7日付「営業損失の計上に関するお知らせ」で公表の通り、2024年1月2日開催の公演におきまして単独での売上高を1,400百万円と見込んでおりましたが、当初予定を大幅に下回る443百万円の販売実績となりました。これらの理由からEX事業において大幅な売上未達となり、またMX

事業においても4Qに関して納品の期ずれも影響し、売上高につきましては、前期実績を下回ることとなりました。

営業利益・経常利益では、4Qにおいて、EX事業の次なる戦略として育成してまいりました「Celestia」などのグループユニットに関する投資費用に関し、長期契約期間に基づき償却を行なってまいりましたが、当初計画に対し、デビュー時期に遅れが生じたことから、583,543千円を一括費用計上（販売管理費）することとなり、営業利益及び経常利益ともに前期実績を下回ることとなりました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益は、当社が予定していた大型イベントが、出演アーティストの都合により開催延期となったプロジェクトの再公演スケジュール予定が決算期末日までに確定できなかったこと、また、固定資産に関して、今後の回収可能性を慎重に検討した結果、特別損失（減損損失）として公演延期によるものとして397,402千円、建物附属設備38,742千円、のれん10,558、その他46,719千円、合計で493,421千円を計上することといたしました。

併せて、2024年5月1日付「特別損失の計上に関するお知らせ」で公表した、当社が2023年10月に開催を予定した公演に関する出演費について、返金に関する覚書に基づき、2024年6月期末日までに回収を見込んでおりました金額が回収できなかったことから、今後の回収可能性を慎重に検討した結果、特別損失（貸倒損失）として197,716千円を計上することといたしました。

以上の理由から、親会社株主に帰属する当期純利益について前期実績を下回っております。

以上